

# 私を育てた秋田

元プロ野球投手 山田久志



山田久志(やまだひさし、1948年7月29日-)は、秋田県能代市出身の元プロ野球選手(投手)・監督・コーチ、野球解説者。兵庫県西宮市在住。現役時代は12年連続開幕投手を務めるなどし、アンダー・スロー投手としては日本プロ野球最多となる通算284勝を記録した。球界関係者からは史上最高のサブマリン投手と称されることもある。

5人兄弟の末っ子で、小学6年生の時に父を亡くす。母から皆と一緒にやれるスポーツをしたらどうか？と言われた。

兄は高校で野球をやっている甲子園にも行った。TVで兄が活躍している姿を見たが素晴らしかった。その映像をみて自分も甲子園を目指そうと思った。

高校二年生までは三塁を守りピッチャーではなかった。甲子園出場のための決勝戦、9回裏、同点でこちらは守り。ツウアウト満塁。三塁にゴロがきた。ボールをとったが、落としてしまい一塁へ投げたが暴投で負けてしまった。大失敗。後日、大田監督に呼ばれた。「失敗は誰にでもある、失敗を力に変えるのも一つの生き方だ」と言われた。また「今後はピッチャーをやれ！」と言われた。高校二年の夏だった。

3年の夏、決勝で秋田高校に負けて甲子園にはいかれなかった。ピッチャーをやったことがある。三振をとった時の快感、打たれてもバックが球をとってくれた時の嬉しさ。高校卒業後、経済的理由で富士製鉄釜石に入った。ここで大変な人、中谷監督(サイドハンド)からアンダーハンドがいいとアドバイスされた。練習でどんどん自分が良くなっていくのがわかった。

東京の後楽園で行われた都市対抗の試合で、優勝候補の日本生命とあつた。東京へ行くのが夢見たいで試合に出られると思っていなかったの、朝から腹一杯食事をとった。が監督から先発と言われた。失敗した...と思った。食べすぎで...監督は前もって言うとおもい直前まで知らせなかったのだ.....。が試合は4対0で完勝勝利。この姿をプロ野球のスカウトの目にとまった。次の試合は2回で6点とられている。野球はわからない...

プロ野球に行くのは夢であったが、母から諫められた。「あなたは釜石に拾ってもらった身よ！」身の程を考えなさい...でもプロ野球選手になりたかった。昭和43年、ドラフト1位で阪急ブレーブスに入った。一年間は2軍、昭和45年に一軍でデビュー、7連敗をした。ピッチャーでは勝てないのでは？の気持ちになっていった。

その後、西本監督に呼ばれ、監督室にはいった。体調はどうか？と聞かれた。次に「本当に頑張っているな！、勝って欲しいと思っているよ！」と言われた。優勝候補の阪急は5、6位に低迷していた。山田を使いすぎているのでは？...と言われるが、気にするな...と言われた。チームの中から不満が出てくるのは本意。「君の出来ることを全てだしてそれでも負けたら、バックは認めてくれるよ...」と監督は言われた。また誰がなんと言おうと昭和45年は一軍で使うから、いつでも投げられるように準備してくれ！」と言われた。その年は17敗してBクラスに終わった。

翌年の昭和46年、日本シリーズの舞台の三戦目、巨人との対戦。初戦は西宮で巨人が勝つ、二戦目は自分が先発で勝つ。後楽園での三戦目も先発、6万人の観衆、4万8千人は巨人ファン。自分も母親、親戚を呼んだがチケットの入手が大変だった。順調に投げていた。最後のツーアウト、長島さんが出てきた。

長島さんはやりにくい人のNO1、センター前に打たれて満塁。次は王さん。王さんにさよならスリーランホームランを打たれた。大きなショックでしばらく立ち上がれなかった。身内の選手はだれも自分のところに来てはくれなかった。一球で負けてしまった.....。限りなく順調な時に一つのフォアボールを出した心の抜けが結果、敗戦に結びついたと思う。昭和46年のミスが何十年後の今でも、TVで繰り返し放映されている。

30歳を越えて、2、3年かけてシンカー(フォークボールの早いやつ)を憶えたお陰で40歳まで投げられた。打たれない球だった。しかし同郷の落合に打たれた。落合が打ち方を皆に教えたおかげでダメになった。

20歳で関西に移って43年、山田さんは秋田出身ですね！といわれて嬉しい。

自分はいいい恩師との出逢いに恵まれた。高校の大田監督のアドバイスでピッチャーになった。富士製鉄釜石の中谷監督、阪急の西本監督には心構えを教えていただき成長した。

自分の身体を如何に管理するかが大切！